

福祉問題

Q 小学三年までの医療費無料化は

A 県にも働きかけながら実現に努力



小林 英雄 議員

校行事の様子などを見てきましたが、『子供は村の宝』であることを実感しています。これが実現すれば、子育て世代への大きな支援になるだけでなく、村民に明るい希望を抱かせます。来年度予算に反映

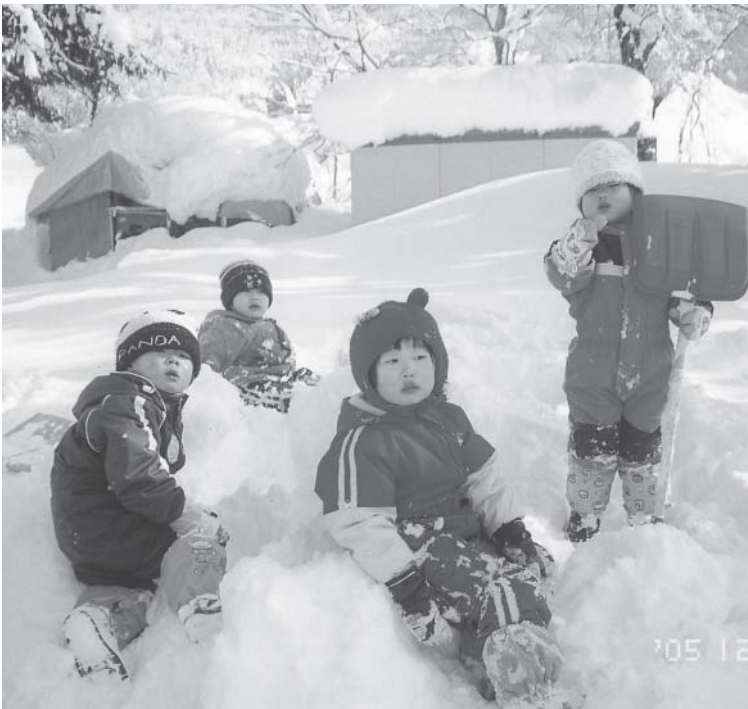
すべく、粘り強く取り組むべきと思いますが。

A 子育て支援や少子化対策として、大きな柱

だと思っっているので、来年度予算を見ながら検討したい。

Q 小泉突風が吹いた衆院選の結果、国民に大きな負担を求める施策が次々と打ち出されています。また村長からは、「合併が不調に終わった」「自立元年」「協働」といった言葉がひんぱんに聞かれました。私は、いかに財政が厳しくとも「住民福祉は自治体の責務」という姿勢で以下のことを伺います。

9月議会で、医療費無料化を、小学校三年生まで引き上げることを提案しました。議員になって以来、村内の小学校から高校に顔を出し、出来る限り子供たちと接し、学



雪遊びの園児たち

現在就学前までのものを、財政が許せば年に一歳ずつ引き上げるのが良いと思います。県が五歳までに引き上げられればその二歳上の小一まで達成できます。県にも働きかけながら引き上げを模索したい。

その他の質問

Q 9月議会でも取り上げた村民バス(仮称)は、福祉タクシーとは性格が違う。新年度予算化への決意を伺いたい。

A 交通弱者のために「福祉タクシー券制度」で対応していて、今後もこれを続けます。

住民すべてを対象とする村民バスを運行する緊急性は低いと思っっている。スキー場バスの活用は、まだ具体化の段階ではない。

三路線なら3000万円。財政状況の厳しい中、今すぐの実現は考えていないが、具体化に向けて、住民の意見を反映する場は必要だと思っ。

Q 図書館は、その自治体の「文化のバロメーター」であるといわれている。「生涯学習」や「情報センター」としての図書館の重要性は、村長も他の場で述べています。

A 図書館に「指定管理者制度」を導入する考えはあります。また「世界の白馬村」としては、お粗末な図書購入費120万円を増額すべきと思っますが。

A (村長・教育長)「指定管理者制度」は、今後その長短を吟味し検討します。図書費増額の重要性は十分に認識しているが、財政的に図書費の増額は難しい。

Q 図書館の中身を充実させたい。白馬の民話を収めた本の復刻や、来館者数・利用率を高めることで。本に親しむ9月から11月の利用実態は。

A 教育次長(図書館長) 貸し出し数や登録者数は前年比増えています。民話復刻については、検討したい。